ニュートイレーナF

洋風簡易水洗便器

■特に注意していただきたいこと

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
便器の取付前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

⚠ **注意**：取扱いを誤った場合に使用者が軽傷を負うか、または物的傷害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ 注 意

- このトイレは必ず便槽に接続してください。また、容量は500L以上のものをお使いください。
  ※便槽に接続する前提で建設大臣の認可を受けています。
  ※4人家族を標準とした場合、500L未満だと汲取周期が1か月未満となることがあります。
- 電気配線は、必ず専門の電気工事店で行ってください。
  ※資格のない人が電気工事をすることは法的に認められておりません。
- ヒーター等電気を使用する場合には、風呂場等水がかかる恐れのある所を避けてください。
  ※漏電や感電事故を招きます。
- 換気扇の電源は防水型コンセントをご使用ください。
  ※漏電や感電事故を招きます。
- 給水タンクからのオーバーフロー配管は内径20以上で施工してください。
  ※給水が止まらない場合に、あふれて他の家財を漏らす原因となります。

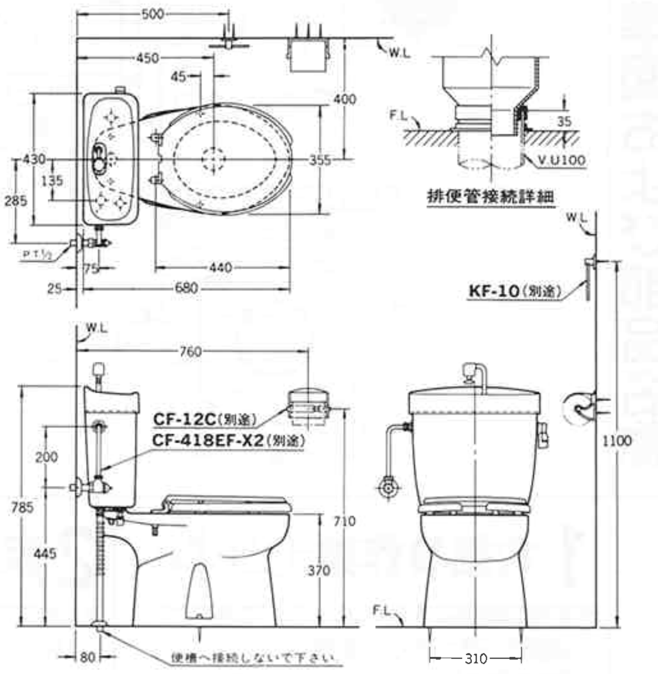
■施工上のご注意

- オーバーフロー管は絶対に便槽へは接続しないで、必ず屋外へ出して施工してください。
  ※便槽内の水があふれる恐れがあります。
- オーバーフロー管の配管途中にトラップを設けてください。
  ※屋外側溝より臭気が上がる恐れがあります。
- フラッパー弁を開放した時に便槽からの臭気が気になることがあります。別売の臭突管（BT-76R）の設置を行ってください。
- 便器を埋め込まないように床工事をしてください。
  ※修理ができなくなります。

■大臣認定規定について

ニュートイレーナFは本説明書の内容どおり施工されることを条件に建設大臣の認定を受けております。
従って本説明書の内容と異なる施工をされた場合には、建築主事による建物の建築確認がおりませんので十分ご注意ください。

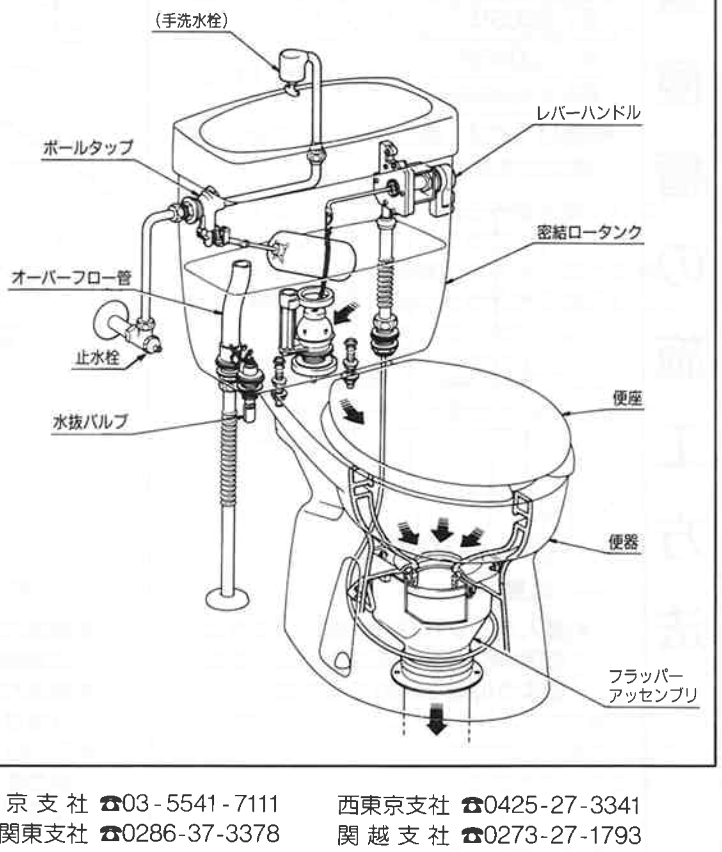
■施工完了図



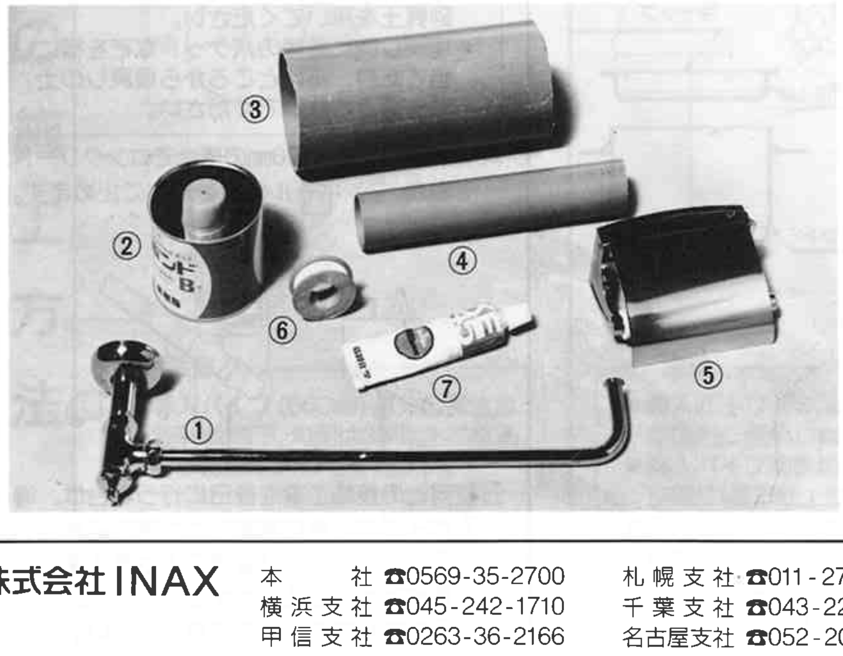
■部品の確認（梱包内容を確認してください）

No.	品　　名	数量
①	本　体	1
②	タンクフタ	1
③	ボールタップ	1
④	オーバーフロー管	1
⑤	便器固定ビス	1組
⑥	接着リング	1
⑦	排便管パッキン	1
⑧	便器内保護カバー	1

■各部の名称



■別途用意していただくもの



①止水栓(CF-418EF-X2)
②塩ビ接着剤
③排便管(VU100)
④オーバーフロー接続用パイプ(VP40)
⑤紙巻器(CF-12C)
（他品番でも可）
⑥シールテープ
⑦コーキング剤

株式会社INAX

本　　社 ☎0569-35-2700
横浜支社 ☎045-242-1710
甲信支社 ☎0263-36-2166
京滋支社 ☎075-222-1794
札幌支社 ☎011-271-1701
千葉支社 ☎043-227-8171
名古屋支社 ☎052-201-1717
広島支社 ☎082-223-1710
東北支社 ☎022-263-1710
埼玉支社 ☎048-668-1177
静岡支社 ☎054-251-1710
四国支社 ☎0878-21-1701
東京支社 ☎03-5541-7111
東関東支社 ☎0286-37-3378
北陸支社 ☎0762-64-1710
福岡支社 ☎092-471-1710
西東京支社 ☎0425-27-3341
関越支社 ☎0273-27-1793
大阪支社 ☎ 06-539-3500
南九州支社 ☎096-322-1794

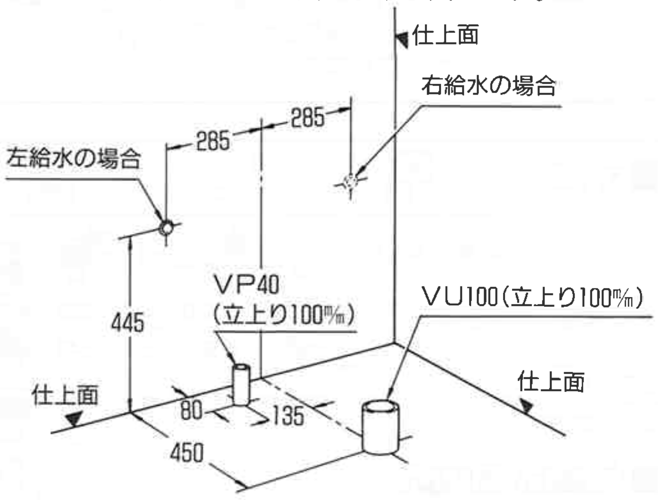
■商品の機能が100%発揮されるよう、本説明書の内容を十分ご理解のうえ正しく施工してください。

■取扱説明書等のお客さまへの手渡し
施工完了後、商品の説明が終りましたら保証書に必要事項を記入し、この施工説明書と取扱説明書をお客さまにお渡しください。

■施工方法

1 便器の位置決め

(1)施工完了図に基いて便器の据付位置を決めます。
(2)オーバーフロー管（VP40)、排便管（VU100）を図のように床面より立ち上げます。
(3)給水配管を図のように壁面より取り出します。

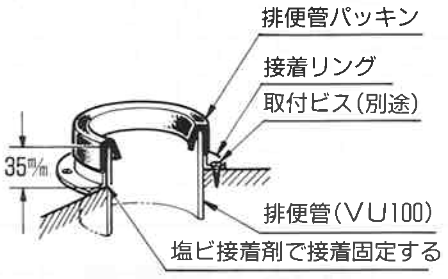


(2)便器の位置を確認して、2本の取付ビスで床に固定します。

注意
- **工事終了後、便器を埋め込まないでください。**
  ※修理ができなくなります。
- **AY仕様は標準品ではありませんので、コンクリート床の場合はAYボルト（AY-55D）を別途購入してください。**

2 排便管パッキンの接続

(1)床仕上げ完了後、排便管およびオーバーフロー管の床からの立ち上がりを、規定寸法（排便管 35㎜)、(オーバーフロー管 0～5㎜）に切断します。
(2)接着リングに塩ビ接着剤を塗布して排便管に差し込み、排便管を固定します。
(3)排便管パッキンを排便管（VU100）にはめ込み、パッキン上面と側面全周をしっかり押さえ、排便管に密着させます。



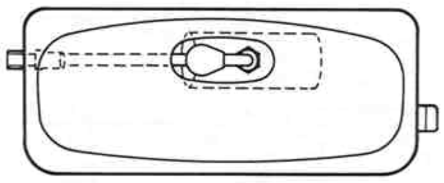
注意
- **排便管は必ず規定寸法で水平に切断してください。**
  ※パッキンが外れ、臭気の発生原因となります。

3 便器の据付け

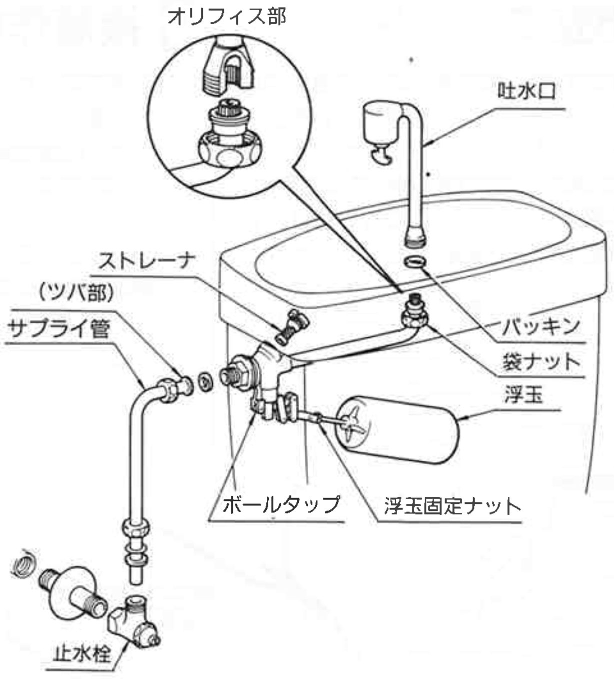
(1)便器を排便管に差し込むようにして据え付けます。
この場合、フラッパー弁に段ボール等をはさんで、芯を上から見ながら差し込むと簡単にできます。

4 止水栓とボールタップの接続

(1)浮玉が壁に干渉しないようにボールタップを取り付けます。手洗付の場合は、手洗吐水管の向きがボールタップと平行になるように取り付けます。



(2)止水栓を給水管に取り付けます。
(3)サプライ管を適当な長さ（止水栓側へ10～15㎜入る程度）に切断して止水栓とボールタップに接続します。



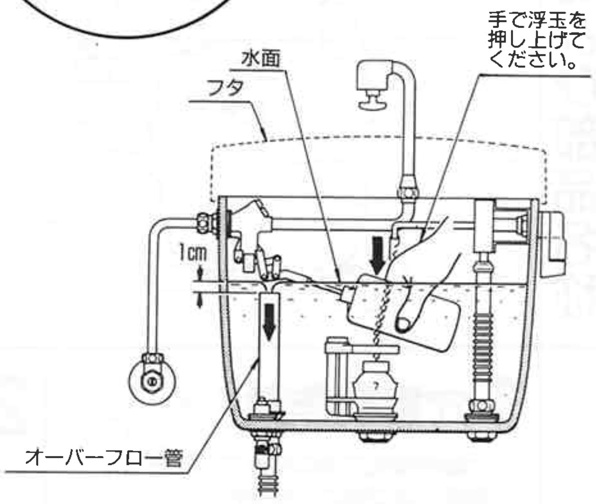
注意
- **袋ナットは必ず工具で確実に締め付けてください。**
  ※給水圧が直接かかっていますので、袋ナットの締付けが不足すると漏水することがあります。
- **サプライ管のツバ部は、絶対に切断しないでください。**
  ※サプライ管が締結できなくなります。

5 オーバーフロー管の接続

オーバーフロー管（ステンレスフレキ管）を床からのオーバーフロー管（VP40）に差し込み、ロータンク下の接続部に接続します。オーバーフロー管（ステンレスフレキ管）とオーバーフロー管（VP40）とのすき間はメジシールしてください。
※オーバーフロー管はステンレスフレキ管になっていて簡単に曲げることができますので、床より立ち上がっているオーバーフロー管（VP40）との芯がずれた場合には、芯を合わせるように調節して接続してください。

6 止水栓の水量調節

万一、ボールタップ及びロータンク内部にて、トラブルが発生した場合でもロータンクから水があふれないようにするため、次の要領で止水栓の調節を行います。



(1)止水栓をドライバー等で右に回し、完全に水を止めます。
(2)ロータンクのフタを外します。
(3)手で浮玉を押し下げながら止水栓を徐々に左に回して、水面がオーバーフロー管の上端から1㎝以上上昇しないよう調節します。

注意
- **調節後に止水栓を扱った場合には必ずこの調節を行うよう、お客さまにもご説明いただくようお願いします。**

7 点検

便器鉢内およびタンク内部の切り屑、ゴミ等を取り除いてから、止水栓を開けロータンク内に水を入れ、各接続部の漏水の無いことをチェックします。
次にご使用法（取扱説明書を参照）に従ってレバーハンドルを操作し、フラッパー弁の開閉、水の流れ具合、排水に異常がないことを確認します。

注意
- **漏水点検は数回繰り返して水を流さないと、確認が困難な場合があります。**

簡易水洗便器専用便槽

■特に注意していただきたいこと

便器を安全に取り付け、使用時の事故を回避するための注意事項をあげさせていただきます。
便器の取付前に、この項目をよくお読みいただき、事故のないように正しく取り付けてください。

⚠ **警告**：取扱いを誤った場合に、使用者が死亡または重傷を負う危険な状態が生じることが想定されます。

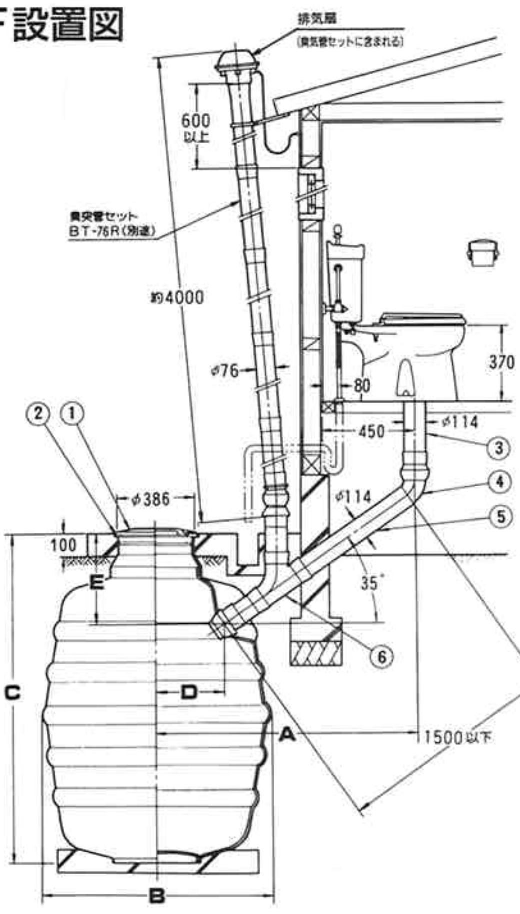
⚠ **注意**：取扱いを誤った場合に、使用者が軽傷を負うかまたは物的傷害のみが発生する危険な状態が生じることが想定されます。

⚠ 警告		
	●排気扇の電源プラグはがたつきの無いよう、根元までしっかり差し込んでください。 ※接触不良による火災の原因になります。	●排気扇の電源コードや電源プラグが傷んだり、コンセントへの差し込みがゆるいときは使用しないでください。 ※感電・ショート・発火の原因となります。
	●排気扇の電源コードには重いものを載せたり、加熱したりしないでください。 ※電源コードが破損して、火災や感電の原因になります。	●交流100V以外では使用しないでください。 ※感電・火災の原因となります。
	●排気扇の電源プラグを抜くときは、コードを持って抜かないでください。 ※芯線の一部が断線して、火災や感電の原因になります。	●修理技術者以外の人は、排気扇などの電気部品を絶対に分解したり修理・改造は行わないでください。 ※発火したり、異常動作してけがをすることがあります。

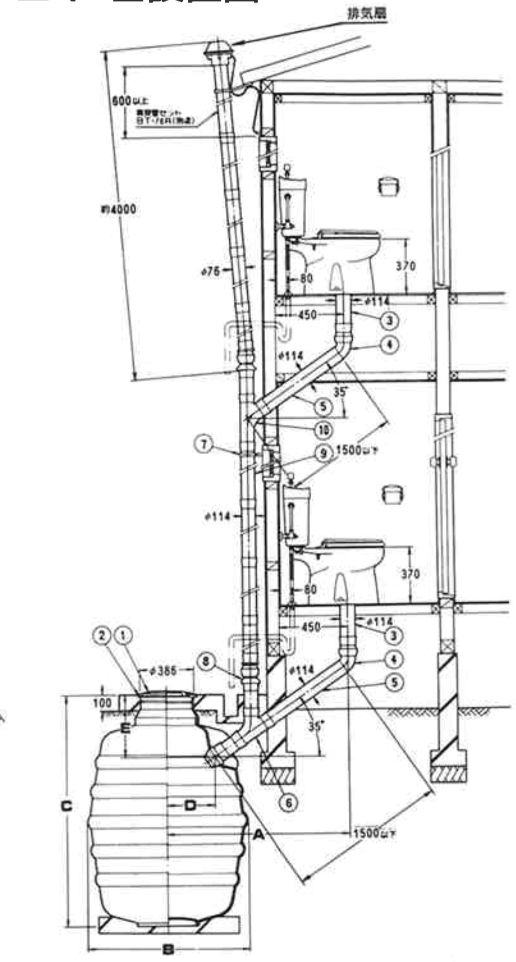
縦型用

縦型便槽の配管標準図および部品名称

■1F設置図



■1・2設置図



■寸法

品　番	容量	家族数	寸　法 (mm) A	B	C	D	E
BT-600R	570L	5人以下	1200以下	φ 870	1450	220	410
BT-800R	760L	7人以下	1250以下	φ 980	1590	240	390
BT-1000R BT-1000RF	950L	9人以下	1300以下	φ1100	1590	290	450

■付属部品内訳

	部品名＼品番	BT-600R BT-800R BT-1000R	BT-1000RF	材質	備考
①	マンホール	1	1	P.P	
②	マンホール枠	1	1	P.P	
③	導入パイプ (300mm)	1	2	P.V.C	φ107×φ114
④	導入自在エルボ	1	2	P.V.C	
⑤	導入パイプ (650mm)	1	2	P.V.C	φ107×φ114
⑥	導入チーズ	1	1	P.V.C	(キャップ付)
⑦	φ114振レ止メ金具	——	1	亜鉛鋼板	
⑧	φ114自在ソケット	——	1	P.V.C	
⑨	導入パイプ(1000mm)(スリーブ付)	——	3	P.V.C	φ107×φ114
⑩	導入チーズ2F用	——	1	P.V.C	(キャップ付)

縦型便槽の施工方法

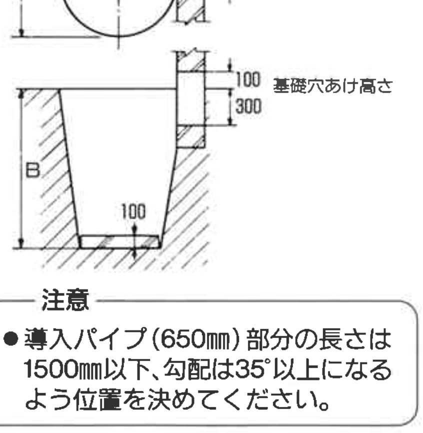
1 穴掘り作業

⑴下図の埋込寸法に従って、できるだけ基礎に近づけて穴を掘ります。
⑵穴の底に約100mmの厚さの捨てコンクリートを必ず敷きます。

●埋込寸法

品番＼穴寸法	φA(mm)	B(mm)
BT-600R	1,350	1,450
BT-800R	1,450	1,600
BT-1000R BT-1000RF	1,600	1,600

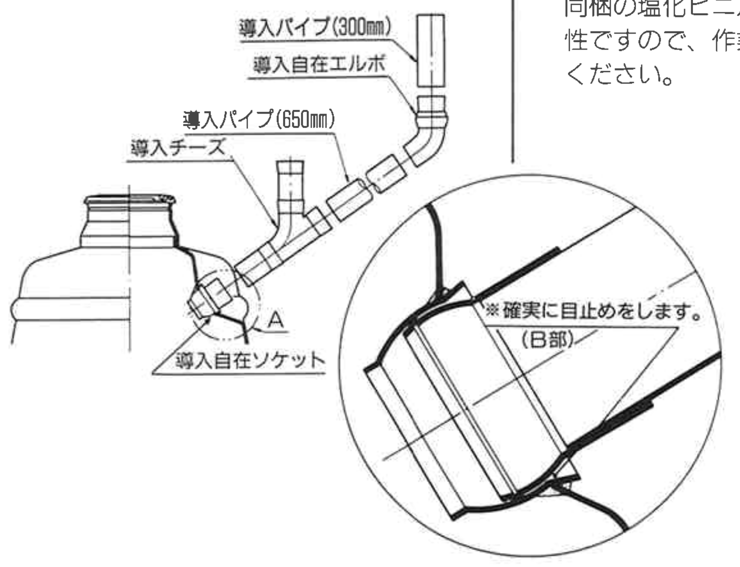
※導入パイプを通すため、図のように基礎に穴をあけます。



注意
- **導入パイプ(650mm)部分の長さは1500mm以下、勾配は35°以上になるよう位置を決めてください。**

2 仮組立て

⑴組立作業の前に、槽の水平および槽の中に異物が落ちていないことを確認します。
⑵導入チーズ、導入パイプ (650mm)、導入自在エルボ、導入パイプ(300mm)を仮組みし、槽本体の導入自在ソケットに取り付け、長さおよび取付角度を確認（合印）します。



A部詳細

注意
- **導入パイプ(650mm)の途中に継ぎ手類は絶対に使用しないでください。**
- **導入パイプ切断の際、切断面は必ずバリ取り(面取仕上げ)を行ってください。**
- **この仮組みの場合、各スリーブ箇所は嵌合部まで確実に差し込んでください。接着剤を塗布した場合は、仮組み時より深く入りますのでご注意ください。**

3 接着作業

⑴必ず布できれいにふき取ります。
※接着剤塗布部分が汚れていますと、接着効果が小さくなり、漏水の原因になります。
⑵接着剤は「ヘラ」等で必ず両面に均等に引きのばします。
同梱の塩化ビニル用接着剤は速乾性ですので、作業を迅速に行ってください。

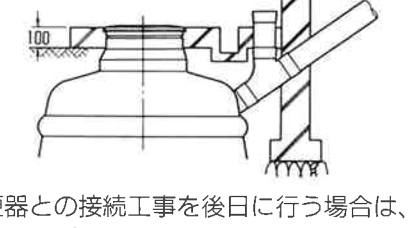
注意
- **特にB部は同梱の塩化ビニル用接着剤を流し込み、確実に目止めをしてください。**

4 仕上げ作業

⑴基礎の穴（導入パイプを通した箇所）をモルタルで補修し、導入パイプを確実に固定します。
⑵接着箇所が確実に固まった後、便器側から10Lの水を流し、便器から便槽間の配管より漏水しないことをチェックします。
⑶埋戻しの場合は、接着箇所が確実に固まってから行います。(固まっていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。)
なお、埋戻しの前に槽の中に半分以上の水を入れ、埋戻し土砂が落ちつき固まるまで槽本体の浮き上がりを防止します。

注意
- **埋戻し土砂は、石ころ等が混入しない砂質土を用いてください。**
- **埋戻し時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋戻しの土砂を落とさないでください。**

⑷槽本体の上に約100mmの厚さでコンクリートを敷き、マンホールの枠を確実に止めます。



⑸便器との接続工事を後日に行う場合は、導入パイプの上端に異物などが落ち込まないように、完全にポリ袋等でふさぎます。
※異物等が落ち込みますと「ツマリ」の原因になりますのでご注意ください。

⚠ 注意

- 電気配線は、必ず専門の電気工事店で行ってください。
  ※資格の無い人が電気工事をすることは法的に認められておりません。
- 排気扇の電源は防水型コンセントをご使用ください。
  ※漏電や感電事故を招きます。
- 給水タンクからのオーバーフロー配管は内径20以上で施工してください。
  ※給水が止まらない場合に、あふれて他の家財を濡らす原因となります。
- 施工中は、必要なとき以外はマンホールを必ず閉めてください。
  ※転落・傷害の生ずる恐れがあります。
- マンホールのひび割れ・破損等を発見したら直ちに取り替えてください。
  ※転落・傷害の生ずる恐れがあります。
- 槽の吊り上げ、据付作業には玉掛けを確実に実施し、槽の下には立ち入らないように安全を充分に確認して作業してください。
  ※傷害事故の生ずる恐れがあります。
- 据付け後の水はり時、槽本体に直接のると滑りやすく落下する危険があります。足場板等を使用し注意して作業してください。
  ※転落事故の生ずる恐れがあります。
- 埋設工事に際して、穴を掘った周囲には防護柵をつくり、関係者以外立ち入らないようにしてください。
  ※転落事故の生ずる恐れがあります。

■大臣認定規定について

ニュートイレーナFは本説明書の内容どおり施工されることを条件に建設大臣の認定を受けております。
従って本説明書の内容と異なる施工をされた場合には、建築主事による建物の建築確認がおりませんので十分ご注意ください。

配管の注意事項

1．配管材料

⑴管の外観・形状・材料は、JIS K 6741（硬質塩化ビニル管）によるものとし、肉厚は、汚水管にあっては2㎜以上、排気管にあっては1.5㎜以上であること。

⑵継手は⑴に準ずるものとし、汚水管用は、汚物の流下に支障のない形状・構造を有するものであること。
ただし、継手の肉厚は、ブロー成形品に限り、少なくとも⑴の80%とすること。

2．排気管

⑴管長（直管実長）が1.5mを超える汚水立て管を設ける場合は、その上部等から排気管をとるなど適切な排気装置を設けること。

⑵排気管の先端には、排気トップ等を設けること。

⑶排気トップは、防臭機能に支障を来たさない性能であること。

⑷排気トップの下端は、建物の出入口・窓・換気口などの上端から600㎜以上高い位置に設けること。

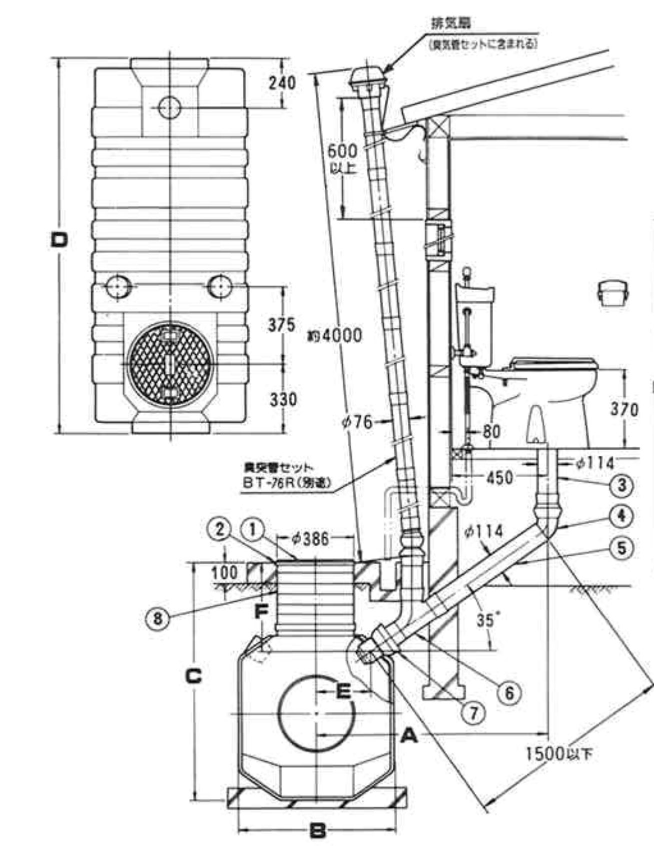
⑸排気管の接合部は、十分な耐久性・気密性を有すること。

⑹管長（直管実長）が1.5m以下の立て管で排気管を設ける場合は、⑵〜⑸と同様の施工をすること。

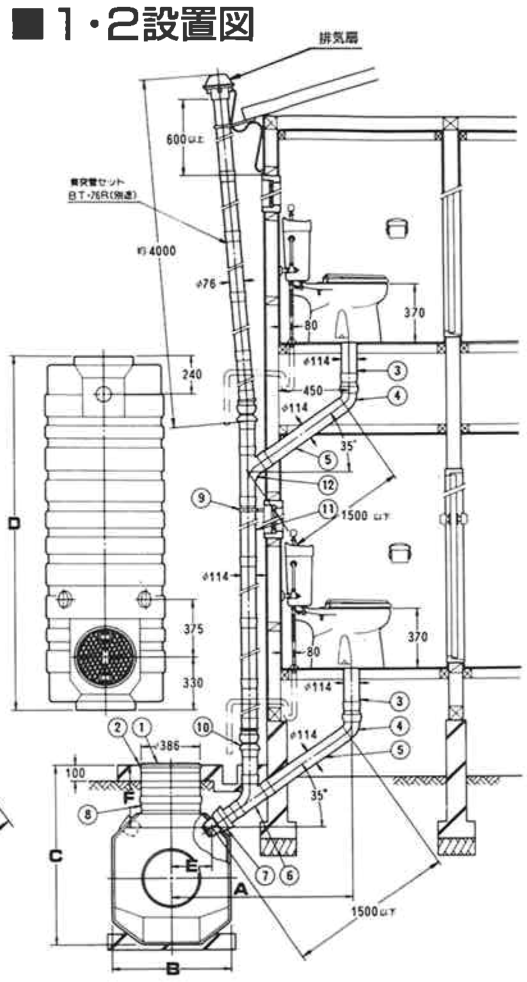
横　型　用

横型便槽の配管標準図および部品名称

■1F設置図



■1・2設置図



■寸法

品　番	容 量	家族数	寸　法（㎜）					
			A	B	C	D	E	F
BT-600SR	650L	5人以下	1100以下	745	1140	1500	230	410
BT-800SR	820L	7人以下	1100以下	745	1140	1800	230	410
BT-1000SR BT-1000SRF	970L	9人以下	1100以下	745	1140	2200	230	410

■付属部品内訳

	品番 / 部品名	BT-600SR BT-800SR BT-1000SR	BT-1000SRF	材 質	備　考
①	マンホール	1	1	P.P	
②	マンホール枠	1	1	P.P	
③	導入パイプ（300㎜）	1	2	P.V.C	φ107×φ114
④	導入自在エルボ	1	2	P.V.C	
⑤	導入パイプ（650㎜）	1	2	P.V.C	φ107×φ114
⑥	導入チーズ	1	1	P.V.C	(キャップ付)
⑦	φ114振レ止メ金具	——	1	亜鉛鋼板	
⑧	φ114自在ソケット	——	1	P.V.C	
⑨	導入パイプ(1000㎜) (スリーブ付)	——	3	P.V.C	φ107×φ114
⑩	導入チーズ2F用	——	1	P.V.C	(キャップ付)

横型便槽の施工方法

1 穴掘り作業

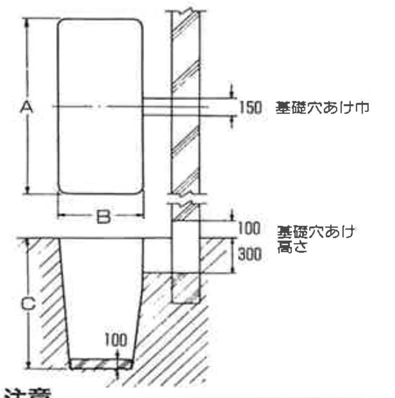
⑴下図の埋込寸法に従って、できるだけ基礎に近づけて穴を掘ります。

⑵穴の底に約100㎜の厚さの捨てコンクリートを必ず敷きます。

●埋込寸法

品番 ＼ 穴寸法	A(㎜)	B(㎜)	C(㎜)
BT-600SR	1,550	900	1,150
BT-800SR	1,850	900	1,150
BT-1000SR BT-1000SRF	2,300	900	1,150

※導入パイプを通すため、図のように基礎に穴をあけます。



注意

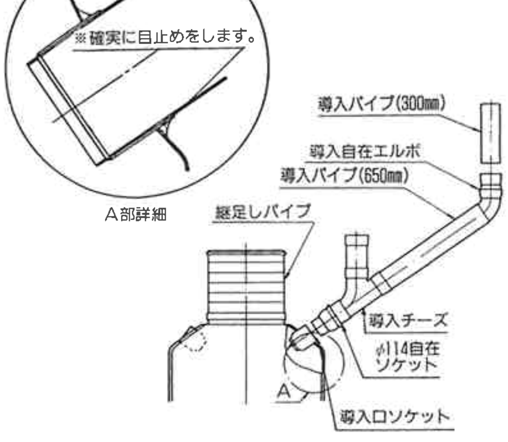
- **導入パイプ(650㎜)部分の長さは1500㎜以下、勾配は35φ以上になるよう位置を決めてください。**

2 仮組立て

⑴組立作業の前に、槽の水平および槽の中に異物が落ちていないことを確認します。

⑵継足しパイプを継足しパイプソケットに取り付け、マンホールの高さを確認します。

⑶φ114自在ソケット、導入チーズ、導入パイプ（650㎜）、導入自在エルボ、導入パイプ(300㎜)を仮組みし、槽本体の導入口ソケットに取り付け、長さおよび取付角度を確認（合印）します。



注意

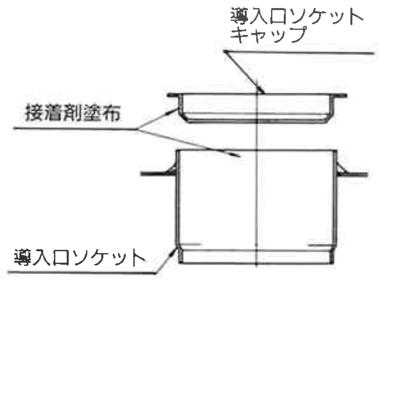
- **導入パイプ(650㎜)の途中に継ぎ手類は絶対に使用しないでください。**
- **導入パイプ切断の際、切断面は必ずバリ取り(面取仕上げ)を行ってください。**
- **この仮組みの場合、各スリーブ箇所は嵌合部まで確実に差し込んでください。接着剤を塗布した場合は、仮組み時より深く入りますのでご注意ください。**

3 接着作業

⑴必ず布できれいにふき取ります。
※接着剤塗布部分が汚れていますと、接着効果が小さくなり、漏水の原因になります。

⑵接着剤は「ヘラ」等で必ず両面に均等に引きのばします。
同梱の塩化ビニル用接着剤は速乾性ですので、作業を迅速に行ってください。

⑶導入口を使用しない箇所は、導入口ソケットキャップを取り外し、接着剤を塗布し、導入口ソケットに接着します。



4 仕上げ作業

⑴基礎の穴（導入パイプを通した箇所）をモルタルで補修し、導入パイプを確実に固定します。

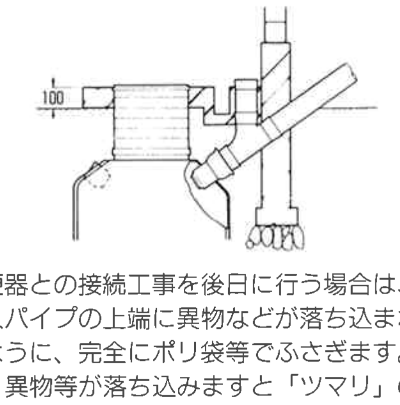
⑵接着箇所が確実に固まった後、便器側から10Lの水を流し、便器から便槽間の配管より漏水しないことをチェックします。

⑶埋戻しの場合は、接着箇所が確実に固まってから行います。(固まっていないと水漏れの原因になりますのでご注意ください。)
なお、埋戻しの前に槽の中に半分以上の水を入れ、埋戻し土砂が落ちつき固まるまで槽本体の浮き上がりを防止します。

注意

- **埋戻し土砂は、石ころ等が混入しない砂質土を用いてください。**
- **埋戻し時に重機のバケットなどを槽に当てたり、高いところから埋戻しの土砂を落とさないでください。**

⑷槽本体の上に約100㎜の厚さでコンクリートを敷き、マンホールの枠を確実に止めます。



⑸便器との接続工事を後日に行う場合は、導入パイプの上端に異物などが落ち込まないように、完全にポリ袋等でふさぎます。
※異物等が落ち込みますと「ツマリ」の原因になりますのでご注意ください。